

第1部会【市民協働部門】 会議概要録

【開催概要】

- 名称：平成25年度 第9回 東区自治協議会 第1部会
- 日時：平成26年1月14日（火）午前10時～正午
- 場所：東区プラザ 音楽練習室2
- 出席者：五十嵐委員、大野委員、折笠委員、作左部委員、南委員、井川委員、佐藤委員、若槻委員、渡辺委員
（事務局）地域課、総務課

【審議内容】

1 災害時の避難・誘導対策推進事業（自治協議会提案事業）について

① 防災ミニワークショップ

12月下旬以降の開催実績は下記のとおりです。

- 12月23日（月）東山の下地区コミュニティ協議会

（月見町第一・月見町・錦町・パークタウンこがね・小金町地区）

参加者：25名 概要録「別紙1」のとおり

- 1月25日（土）南中野山小学校区コミュニティ協議会

（石山・もえぎ野・栗山・中野山地区） 参加者：33名

- 1月26日（日）下山地区コミュニティ協議会（幸栄・河渡新町地区） 参加者：23名

② 防災フォーラム

1月19日（日）東区プラザホールにて、東区自治協議会主催の防災フォーラム「みんなで考えよう・自助の力～いま考える、命を守る防災対策～」を開催しました。（参加者250名）

③ 冊子について

（仮称）「東区避難誘導対策推進提言書」を「みんなで考えよう自助の力」というタイトルで作成することになりました。1月24日（金）に臨時会を開催し、編集作業を行いました。

2 地域（区）における自治の深化に向けて（素案）＜区民との協働＞区自治協議会とのさらなる協働の推進について（参考意見聴取）

第1部会では2回にわたって検討しました。まず1月14日（火）の部会で、各設問の意味について共通理解を図り、アンケート集計結果について事務局から説明を受けました。次に1月21日（火）に臨時会を開催し、「区自治協議会のあり方・方向性」についてワークショップ形式で意見交換を行いました。

3 その他

次回開催日 平成26年2月12日（火）午前10時から 東区プラザ音楽練習室2

第 1 回東山の下地区自治会・町内会合同ワークショップ概要録

【開催概要】

- 日 時：平成 25 年 1 2 月 23 日（日）午前 9 時 00 分～11 時 30 分
- 会 場：小金町自治会館（東区小金町 1 丁目 10-26）
- 参加者：東山の下地区住民 25 名
（月見町第一 3 名、月見町 6 名、錦町 6 名、パークタウンこがね 3 名、
小金町 7 名）

【ワークショップ検討結果】

- 月見町第一町内会
 - ・一次避難所は町内で最も高い集会所（12m）になる。
 - ・月見町第一町内会は戸数 220 戸の住宅地
 - ・町内の海拔が平均でも 10m の高台にあるので、基本的には避難は不要。
 - ・津波の水がくるとしたら海側からと通船川からと考えている。
 - ・東山の下地区指定の二次避難所は低い道路を越えた先にあり、遠くまで歩かなければならない。一方、別校区だが大山台の二次避難所が近くにあるのでそこに避難するのが妥当と考える。
 - ・避難する際は、自宅待機している人を呼びかけてみんなで避難する。
 - ・防災グッズが揃っていない。
- 月見町町内会
 - ・一次避難場所は標高の高い 12m くらいのところとして、次にみんなで二次避難所の藤見中学校に避難する。
 - ・月見町は標高の高いところ 12m、低いところ -0.4m
 - ・月見町は高台なので住民の防災意識が低い。新潟地震の時も被害がなかった。
 - ・広い町内で住民が居住しているのは道路より上で、海拔 0m 地帯には住民はいない。
 - ・高台の避難するルートに狭いところがある。車椅子などで通行可能か心配。その場所が被害にあった時に、その被害を確認するのが難しい。避難ルートとして使えない場合もでてくる。
 - ・低いところ（-0.4m）では新潟地震時に地割れし、水が湧き出すなど液状化が見られた。
 - ・スーパーや赤道、避難所にもなっている東山の下小学校も含めて、地割れや液状化になるのではと心配している。
- 錦町町内会
 - ・避難ルートは原信に集合した後藤見中学校を想定している。
 - ・錦町は 63~64 世帯、140~150 人
 - ・原信の西側と東側。海拔は十兵衛堀の 0.3m が低く、西松屋あたりが高くて 7m くらい。
 - ・割と地盤は良いので液状化の心配はない。
 - ・十兵衛堀の近くに住む人の避難が気がかり。いざというときの誘導は地盤の高い人々が気遣う必要がある。
 - ・少ない世帯なので顔の見える連携を行いたい。

- ・防災用品として発電機、リヤカー、車椅子、除雪機、ゴムボートが用意されている。
- ・井戸水も発電機でポンプアップできる。
- ・100人分の炊き出しを出せる。毎年自主防災や夏のイベントで実践している。
- ・普段の活動や会合に参加できない方々への啓蒙が大切。

○ パークタウンこがね町内会

- ・この地区は低いところで海拔 14m。そのため防災意識は低く津波、水の心配がない。したがって何があっても自宅待避になる。
- ・110世帯
- ・自分たちが避難するより、回りから避難してくる人たちをどう受け入れるかが課題。

○ 小金町自治会

- ・何かあったら藤見中学校へ
- ・小金町は 320 世帯、800 人
- ・標高は低いところで 1.2m、高いところは 18.3m
- ・防災訓練をしても参加は 1 割。もっと啓発が必要。
- ・避難するため坂道を登るが幅員 4m で狭く、一部砂利道もある。老人も多いので大変かもしれない。避難経路をいろいろ想定しなくてはいけない。
- ・避難する際に危険なところが数箇所ある。山を崩したところなど。住民に周知しなくてはいけない。
- ・災害時には水が必要なため、井戸水ポンプのあるところを探す必要がある。
- ・ダイヤモンドが町内会にあるが、タンクがあるので爆発すると大変。

【質疑応答】

- ・小金町は町内に崖地が多く心配だが調べてもらえるか。
 - 市でも調べてくれるはず。
 - 崖など避難危険箇所を調べてどのように対応するのか課題にしていきたい。